

ステンレス板2,300枚を交換せよ！ 豊橋駅「あわや大惨事」で業務委員会

本部は10月28日、豊橋駅において新幹線列車の通過時に重さ約1キロのステンレス製鋼板を巻き上げ、飛ばし、ホーム上の窓ガラスを直撃した「あわや大惨事」について業務委員会を開催しました。

会社は、今回の事象について「ロングレールが可動区間において、レール温度の変化によりレールが伸縮し、ステンレス鋼板の滑りが悪く、ステンレス鋼板が移動し、列車の通過時の繰り返し加重で折り曲げ部がたたかれ亀裂が生じ、損傷し徐々にステンレス鋼板が抜け落ちたと考える。その後列車通過時に風圧により巻き上げられ車両に接触し、飛んだものと推定した。」と回答しました。

会社の対策は・・・

- ◆緊急点検を実施し、不良箇所は交換した。
- ◆ステンレス鋼板はロングレール交換に合わせて交換する。
- ◆伸縮継ぎ目前後の可動区間に年2回潤滑剤を塗布する。
- ◆不良を発見しやすくするため視認性の高い鋼板にする。

なんと！当該ステンレス鋼板は平成元年に取り付け！

議論を通じて、破損したステンレス鋼板は平成元年に取り付けられ、約22年もの間使用されていたことが明らかになりました。そして、緊急点検で取り替えた4枚のステンレス鋼板にはクラック（亀裂）があったことから、本部は、破損原因は経年劣化であり、このまま放置すれば再発する恐れがあると主張、同種のステンレス鋼板2300枚を直ちに交換するよう迫りました。

また、列車速度の向上や運転本数の増加がステンレス鋼板を破損し、ホーム上へ飛ばしたことに繋がっています。あらためてバラスト巻き上げ事故（豊橋駅・1993年）の教訓を活かし、列車通過時に線路から部品等を飛ばし、旅客にケガをさせない対策を講じるよう迫りました。